



わかむぎ

No.10 令和6年1月19日 発行/古屋 正樹



凍とした空気が流れ
厳肅な雰囲気の中でのスタート
この空気感を創れるのが押中生！

580人が輝く一年に！

新たな年がスタートしました。新年早々には、思いもしない災害と事故に見舞われ、不安になった生徒、ご家族も多かったと思います。みんなが元気に、そして笑顔で始業式を迎えられることは、当たり前ではないと改めて痛感します。被害に遭われた方々へ思いを馳せながら、私たちは今この時、この場所で頑張っていくことが大切ではないでしょうか。

さて、節目となる1年のスタートです。きっと、誰しも夢と希望に満ち溢れていることと思います。今年の干支は「辰」。動物にあてはめると竜ですが、竜は十二支の中で唯一想像上の動物です。竜は「力強さ」の象徴であり、「**力溢れる年、活気づく年**」になると言われています。また、辰は「ふるう、とどのう」という意味があり、陽気が動いて万物が躍動し、草木もよく成長して形が整うとされています。

まさに、受験を迎える3年生にとって絶好の年と言えるでしょう。また、これから押原中のリーダーとして牽引する2年生にとっても、さらに押中生活2年目に入る1年生にとっても、誰にとっても**絶好の年**と言えるでしょう。1年間のまとめとして、そして、次のステージの準備期間として、最後まで「一生懸命がかっこいい」姿を持ち続けましょう。

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」とは、学校でよく使われる言葉です。時の流れに置いて行かれないよう、また、日々の雑踏に翻弄されないよう、毎日、毎時間を大切にしてほしいと思います。580人が輝く1年となることを願っています。

思いは一つ ～被災地に思いを馳せて～

元日の夕刻を突然襲った「能登半島地震」。テレビやスマートフォンの緊急地震速報がけたたましく鳴り響き、私たちの昭和町でも震度3を記録しました。正月を祝う家族団らんの時に突然の緊張が走ったことと思います。また、保護者の方の中には、東日本大震災の大きな揺れを思い出した方も多かったのではないのでしょうか。北陸地方では未だに余震が続き、不安な毎日を送る被災地の方々の身を案ずる毎日です。

そんな中、9日(火)の始業式において、加賀美新生徒会長から、この地震に対して「行動を起こそう」という呼びかけがありました。その話に聞き入る生徒たちの表情は、真剣そのものであり、皆心は同じであると感じた瞬間でした。早速12日(金)には、新生徒会本部から具体的な取組が提案され、今週15日(月)から募金活動が開始されました。想像していた以上に、生徒の関心は高く、自分たちにできることを真摯に考えた言動がありました。

被災地の学校に目を向けてみると、被害の大きかった輪島市や珠洲市、能登町の中学校では、学校全体による「集団避難」が始まっています。自分の学校で学ぶことができない状況や、同じ日本の中で同じ中学生が、私たちとは全く違う環境に追いやられていることは、「他人事」では片付けられない問題です。北陸地方のすべての方の苦境を「自分事」として考え、今、私たちができることを肅々と行っていくことが大切ではないでしょうか。今回の出来事と取組を通して、今ある私たちの生活は当たり前ではないこと、一人の力は小さくともそれが集まれば大きな力となること、共助の心を持ちそれぞれの立場や環境で頑張っていくこと等、たくさんのことを感じ、また、学ぶ機会となっています。一日も早い復興と安心できる環境の確保を願うばかりです。



節分と立春

2月3日は「節分」です。「節分」は、「季節」を「分ける」と書き、「季節と季節の分かれ目」を意味します。古くから「節分」の日には、「鬼は外、福は内」と言いながら「福豆」をまき、年の数だけ(または1つ多く)食べる厄除けを行います。この「鬼」は病気やケガなど人々を不幸にするものを、また、「福」は幸せを意味しています。1年間、病気やケガをせず、毎日が健康で幸せな日々になるように願って「福豆」をまきます。さらには、玄関に「ヒイラギとイワシの頭」を飾り、鬼を寄せ付けない邪気よけも行います。古くさい話だと思かもしれませんが、日本古来の年中行事として、豆まきをしてみても如何でしょうか。

そして、4日は「立春」、「春立つ日」。「この日から春が始まり、一日一日と暖かくなる」ことを意味しています。時節柄、まだまだ寒い日は続きますが、確実に春へ近づいています。寒い冬の間、土の中で着々と養分を吸収し、春には一回りも二回りも大きな花を咲かせる植物のように、生徒の皆さんの、さらなる飛躍を願っています。